

図書館員のひみつの本棚 第62回

6月19日は福岡大空襲の日でした。

今月は戦後戦争児童文学の代表作をご紹介します。

『星の牧場』

庄野 英二／作 長 新太／絵 理論社

1963年初版(現在手に入るものは2003年に理論社名作の森シリーズから出直したのになります) 1680円

科学読物

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★★★★ 中学生★☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

イシザワ モミイチはもともとハニカミ屋で口数が少なかったのですが、戦争から帰ってきてますますそうになってしまいました。

両親をすでに亡くしていたモミイチは復員後戦争前から世話になっていた山の牧場に帰ってきます。牧場で静かに暮らすモミイチには戦争中の記憶がありません。けれども戦争中に世話をしていた愛馬ツクスミのことはいつも頭にあり、牧場にいるもツクスミのひづめの音が聞こえてくるのです。が、この音はモミイチにだけ聞こえるようで、牧場の人たちは「モミイチは戦争でおかしくなった」とかわいそうに思っていました。

ある日、モミイチがまた聞こえたツクスミのひづめの音を追いかけていくと、クラリネット吹きのジプシーと出会います。クラリネットの奏でる音楽に心奪われたモミイチは、自分にも何か音楽ができないものかと牧場に帰ると鈴を作りました。美しい音色のたくさんの鈴をもったモミイチはもう一度ジプシーに会いたくて山の中に入っていきます。

<子どもに手渡すときのポイント>

9年間、アジアで戦争を体験した著者が描く戦争文学は幻想文学とも呼べるほど詩的なファンタジーです。戦争を経験していない世代には手渡してもポカンをしてしまうかもしれませんが、「お子さまランチのようなものは書かん」と少数でも具眼のある読者へと向かって書かれた文学は、一度子どもの心をとらえると離さないでしょう。

自分の力ではいかんともしがたい圧倒的な圧力に押しつぶされた心の傷は、東日本大震災にも通じるものがあるのかもしれませんが。読書による心の再生は、戦後だけでなく今現在も子どもにとって必要なものではないでしょうか？

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

子ども図書館 重村 さやか

